

葛西由香「プロフェッショナル」 2020 / 220×27.3mm / 紙本彩色、水干絵具、岩絵具



日本画

札幌

八景

朝地信介
葛西由香
紅露はるか
仲村うてな
中山果林
羽子田龍也
水野剛志
三谷佳典

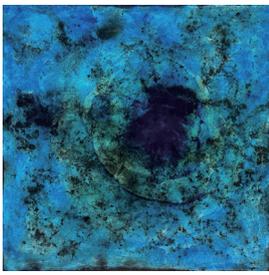
二〇二六年

四月十日(土)

七月一日(水)

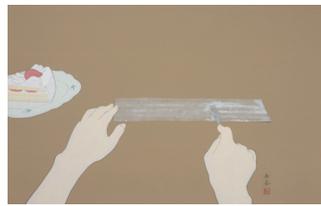
会場／札幌大通地下ギャラリー500m美術館 札幌市中央区大通西一丁目～大通東一丁目
 (札幌市営地下鉄大通駅と地下鉄東西線バスセンター前駅間の地下コンコース)
 企画／有限会社クレスト／CA現代芸術研究所 一般社団法人PROJECTA
 時間／7:30-22:00 主催／札幌市 <https://www.500m.jp/>





「水面の変容」2025
S50号/木、紙、膠、アートグルー、
酢酸ビニル樹脂エマルジョン接着剤、
エポキシ樹脂、着色剤、ペンキ、土、葉、岩絵具

1976年函館市生まれ。日本文化が伝統的に表してきたものを要素として取り込み、膠、岩絵具のほか自然物や身近な素材、樹脂などを使って日本画を制作。基底材を野外に放置することで現れる自然の作用、その痕跡に含まれる美しさを作品として表している。札幌を拠点に活動し、主に道内外の個展、グループ展、公募展や海外のグループ展などに出品。2004年から道展日本画部門会員、常任委員として運営に関わる。2012年から鼓動する日本画展実行委員会の立ち上げに関わり、実行委員長として運営を行う。制作・発表の活動と併せて北翔大学芸術学教科員として絵画表現と美術・図画工作教育の指導と研究に取り組む。



「豊かであること」2024
333×530mm/紙本彩色、水干絵具

1993年北海道生まれ。札幌市在住。2016年札幌大谷大学芸術学部卒業。ささやかな事柄が持つ力に着目し、等身大の生活やありふれた物事を題材に人が生きることの賛美とも郷愁とも取れる日本画を描く。主に生活用品や食べ物といった身近なモチーフを用い、その配置や関係性からなんらかの状況や気配を示唆するような作品を制作する。近年は装画や企業とのアートワークなども手がける。2016年札幌大谷大学芸術優秀賞受賞。2021年大谷賞受賞。2025年道銀芸術文化奨励賞受賞。



「つづいていく風景一光をてらす」2019
910×512mm/膠、水干絵具、岩絵具、墨、布

1981年北海道生まれ。日常、生活の中で出会った景色とその時の自分の心情が合わさったものが作品に反映される。生まれ育った北海道の景色と季節によって表情を変える自然にインスピレーションをいただきながら制作をしている。日本画では「紅露はるか(旧姓 雷櫻)」で活動し、イラストの仕事では「とがしはるか」で活動。作品展示、ワークショップ、専門学校講師、イラスト関係の仕事の他、弟子屈町のワイン「テシカ」のワインラベル、令和4年度北海道立近代美術館、砂澤ピクニック展ラーニングプログラム「文様の魅力・再発見〜文様ステンシル〜」ステンシルデザインを担当。



「窓辺の鉢植え」2025
730mm×730mm/紙本彩色、水干絵具、岩絵具

1995年北海道生まれ。普段生活をしている中で目にする現象を切り取り、人の行動の跡を輪郭・境目である線を引く事で区別し整理する日本画作品を制作している。主な展覧会として、帯広マテックプロダクツ2Fギャラリーやグランピスタギャラリーサッポロなどで個展を開催。三岸好太郎美術館「mima-no-me #みまめ Vol.8」などの展覧会に参加。2024年Seed山種美術館日本画アワードにて奨励賞を受賞。2017年第3回石本正日本画大賞展入選。

このたび札幌大通地下ギャラリー500m美術館では、北海道を拠点とする日本画家八名による、札幌・北海道の風景や日常を題材とした日本画展を開催いたします。
古来より「〇〇八景」と呼ばれる風景表現は、近江八景をはじめ各地で描かれ、その土地の風土や人々の営みを象徴的に捉えるものとして広く親しまれてきました。本展ではその視点を現代に引き継ぎ、札幌という都市における風景や日常を、日本画の表現を通して捉え直します。
北国の風景に宿る美しさを厳しき、日常に潜むおかしみ、そして季節の風物詩。ここに暮らす人々と自然の営みの二場面が、日本画ならではの深みのある色彩や繊細な輪郭線、幽玄な余白、そして現代の日本画家による多様な発想によって描き出されます。
本展は、日本の伝統的な表現を再認識するとともに、現代の日本画における広がり、札幌・北海道を拠点に活動する作家たちの実践を紹介する機会となります。地下コンコースを歩きながら、八者八様の視点で描かれる「札幌八景」をぜひご覧ください。



「綴じ花」2022
F100号/鳥の子紙、水干絵具、岩絵具

1999年北海道野付郡別海町生まれ。札幌大谷大学芸術学部美術学科 日本画専攻を卒業。過去の文学作品から着想を得て、人間の存在や意識の儚さや危うさ、流動的に移り変わっていく時への住しさを、色調やモチーフに込めて平面作品を制作している。主に札幌を拠点に、鼓動する日本画展、北海道作家による次代を担うアーティスト展などのグループ展で活動。2020年 第12回 道展U21 (北海道新聞社賞)。2021年 第96回 道展 (新人賞)。2022年 第97回 道展 (佳作賞)。



「春待ち桜」2021
1,750×2,200mm/紙本着彩、膠、胡粉、岩絵具

1970年東京都生まれ。東京藝術大学ならびに東京藝術大学大学院で日本画を専攻。修了後は日本美術院展への出品を中心に、各種グループ展等で発表を続ける。風景画を主としており、題材は都会的なものから徐々に自然を対象にするようになり、2006年に渡道したのちは北海道の風景、特に冬景色をテーマに制作している。現在、北海道教育大学岩見沢校芸術・スポーツ文化学科美術文化専攻准教授として日本画の指導にあたっている。



「北方斜里岳」2022
909×1,167mm/雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具、銀泥、無類膠など

1977年札幌市生まれ。約20年にわたり自然を主題とした日本画制作を続ける。近年は北海道の山々や高山植物を中心に、山頂で感じる自然の時間をテーマに制作している。2001年日本芸術文化振興会奨励賞。2005年茶廊法呂ギャラリー大賞展優秀賞。ユネスコ世界ジオパーク認定記念個展(様似町)、京都市美術館での「尖」展招待出品、個展「消えゆく山の記憶」などを開催。2024年第33回道銀芸術文化奨励賞受賞。近年は「天空の花鳥風月」をテーマに各地で個展を行う。



「夜の隙間」2023
1,620×2,273mm/パネルに膠、紙本彩色、岩絵具、水干絵具

1987年北海道深川市生まれ。大阪芸術大学大学院在籍中に日展に初入選。以来、日展と日春展を主に活動中。鉱物から作られる岩絵具の美しさに魅了され、粒子が放つ輝きを自身の作品に活かしながら静謐で深奥な独自の世界を表現しようと制作している。現在、日展準会員、日春会会員。全国主要百貨店にて個展、グループ展多数開催。



ご来場いただいた方を対象にWEBアンケートを実施しております。今後のより良い企画運営のため、ご協力をお願いいたします。

●回答方法 / スマートフォンやパソコンを使って下記URL又は二次元コードからアクセスしご回答ください。

札幌市公式HP ホーム > 教育・文化・スポーツ > 文化・芸術 > 札幌市所管の文化施設について(指定管理者制度など) > 札幌大通地下ギャラリー「500m美術館」
https://www.city.sapporo.jp/shimin/bunka/500mbijutukan/2026_questionnaire500m.html